

なにわ区

【第9回】 幸町 地域

幸町を襲った2度の空襲

区長 大澤さんは戦前の生まれとお聞きしました。
大澤さん 私は1932(昭和7年)に幸町1丁目生まれて、高台(たかきや)尋常小学校に入学しましたが、戦争が始まって、母の里の姫路に疎開しました。1945(昭和20)年3月、学童疎開していた児童のうち6年生と先生方は卒業式があるというので、式の2、3日前に疎開先からこの幸町に帰ってきて、明日はいよいよ卒業式と、着る服などを枕元に用意して寝た夜に、あの空襲に襲われたと聞きました。
谷さん 幸町は3月だけでなく6月にも空襲があって、私の父の家はその6月の空襲で焼けてしまいました。



戦災を免れた幸町5丁目(現在の幸町3丁目あたり)の写真(1975年頃)

大澤さん 私は小学校の卒業証書ももらっていません。いつだったかピース大阪で、読売新聞どこかの主催だったと思いますが、「大阪市民で、卒業証書のない人は授与します」という会がありましてね。それに参加しましたのでピース大阪の卒業証書は持っています。6、7人でいただきました。もちろん正式な卒業証書ではありませんが、高台小学校の名前が書かれていました。

高台(たかきや)小学校

1872(明治5)年に創立、その後、1945(昭和20)年3月の大阪大空襲で校舎の大半が焼け落ちました。1946(昭和21)年3月、日吉小学校に合併されたのを機に廃校となり、1959(昭和34)年には焼け残った校舎の一部も取り壊されました。悲惨な戦争と戦後の困難であった体験を風化させないために校舎跡地には1988(昭和63)年8月に記念碑が建立されました。



高台小学校記念碑建立記念誌より

千葉さん 大澤さんの先祖は昔、お医者さんだったんですよ。
大澤さん 緒方洪庵(1810~63年、江戸時代後期の医師、蘭学者)の生きていた時代にここで医者をしていました。当時は、今の相模の番付のように、医者も番付もありましてね。うちの先祖の名前もその番付表に載っていたようです。

美味しい「幸町の水」

千葉さん 以前、酒店を営んでおられた方のお話では、ご先祖さんはここで酒樽を作っていたそうです。幸町通りに面している家の庭にはたいてい井戸があって、とてもきれいで美味しい水がとれたので、堀江にあった酒蔵はその水でお酒を作っていたそうです。堀江と幸町は昔からそういうつながりがあるんですね。
 また、幸町通りにはたくさん材木問屋があって金持ちが多かったと聞きました。女の子が生まれて生理が始まると、最初の生理があった日に道頓堀川の水を汲んできて、櫛を水につけて髪を梳いてお祝いする風習が



【参加者】(後列左から)谷正一さん、幅多区長 (前列左から)千葉優さん、大澤滋さん(大澤滋さんは、令和6年9月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。)



1969(昭和44)年地下鉄千日前線開通記念の切符

あったそうですよ。

戦前の生活

幸町の家は住居兼店舗で間口2間半、深いうなぎの寝床のような家であり、2階建てであった。私が物心つく時分には、もちろん、電気・ガス・水道はあったが、釣瓶井戸があって冷蔵庫がわりに使っていた。なおトイレはくみ取り式で、近郊の農家の方がくみ取りきて、代金がわりに大根など季節の野菜を置いていったという記憶がある。

【1927~45(昭和2~20)年6月の空襲まで幸町5丁目にお住まいだった廣瀬英雄さんの手記より】

区長 そんな風習があったとは。昔は道頓堀川の水も、きれいだっただけでしょう。谷さんは戦後の生まれですか。
谷さん 両親が戦後すぐに結婚して、1947(昭和22)年に僕が生まれたんですが、空襲で家が焼けてしまって住むところがありませんでした。羽曳野に道明寺という尼寺があって、昔からご縁があった関係で、僕が2歳になるくらいまで仮住まいをさせてもらっていました。その後、幸町に戻ってきました。

かつての幸町のまち

区長 子どもの頃の幸町はどんな様子だったのでしょうか。
谷さん 幸町通りの道路は戦前、木レンガでできていましたが、戦争で焼けてしまったので、その後はアスファルトを使って舗装されていました。でも所々、アスファルトが剥がれているところがあって、10センチ角くらいの木レンガが見えました。
 また、昔は「馬力(ばりき)」といって馬が荷車を引いていました。道頓堀に沿って北側に大きな木材せり売り市場がありましたので、そこから木材を運ぶためによく馬力が通っていました。幸橋を渡るのに馬の蹄(ひずめ)が滑って転倒してしまうこともありまして。当時の材木屋はわりと儲かっていたので、すぐにトラックに変わりましたが、馬力は僕が中学生の頃までありました。1967~68(昭和42~43)年くらいまで、幸町には材

幸町材木町

道頓堀川の改修後(1615年開さく完了)、船着き場として300年を超える歴史があり、九州や瀬戸内海方面から運ばれた大阪城の石垣材などの荷着場でした。現在の日吉橋の名称も豊臣秀吉の幼名にちなんでつけられたといわれています。その頃より幸町の材木・炭炭問屋があり、各地からの集荷場所として栄えました。

浪速区史より

2025(令和7)年、浪速区は区制100周年を迎えます。その節目にあたり、浪速区の歴史を区内11地域の皆さんと座談会で振り返る連載企画です。第9回では、幸町地域の皆さんに当時の思い出やエピソードなどを伺いました。



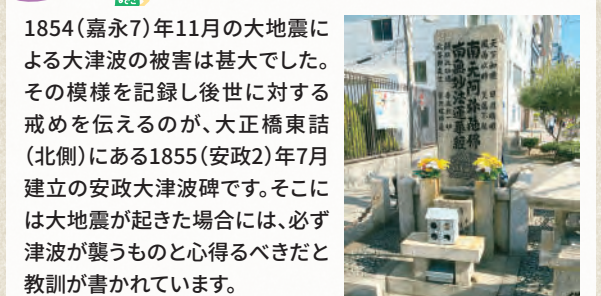
丸太は川に浮かべておいて、それを引き上げて製材すると木材がよい具合に乾燥するので、道頓堀川には丸太筏(いかだ)がたくさん浮かんでいました。木材関係の仲買は幸町通りに多く集積していましたが、材木屋が多かった関係で、木工機械屋さんも多く集積していました。
区長 道頓堀川はどんな様子でしたか。
谷さん 僕が幼稚園の頃くらいまでは堤防がなかったんで、川で泳ぐ人もいました。一部の材木屋さんはレクリエーションとしてカヌーも持っていたので、それで遊んだりもしました。

大きい台風などが来ると川から水があふれて、川沿いの会社の事務所は大きく浸水しました。その時に事務所の窓ガラスから外を見たら、まるで水族館にいるみたいだったように思っています。水が引いて事務所を見に行くと、フナやドジョウ、タナゴやらなにやらいっぱいいました。1955(昭和30)年頃に第1次の防潮堤ができるまではそんな状態でした。
 1953(昭和28)年の13号台風の時は浸水したと思いますが、風も大変強く感じました。当時、「家曳き」といって家を土台からジャッキで持ち上げて10メートルほど家をずらす予定でした。台風が来た時は家の2階にいたんですが、ちょうどジャッキで家を持ちあげた状態だったので、とても揺れたのを覚えています。
区長 幸町は、北は道頓堀川に面しており、西側には木津川が流れています。
谷さん 木津川には名村造船や佐野安船渠などの造船所が多くあったので、大正橋のあたりには船具屋がたくさんありました。船具屋は荷物を集めるのが上手で、船に積み込む生活用品、例えばマッチとかろうそく、料理をするためのザルや布団、毛布、枕など何でも扱っていました。
区長 木津川には大正橋がかかっており、その北東詰めに安政大津波の碑がありますね。

1854(嘉永7)年11月の大地震による大津波の被害は甚大でした。その模様を記録し後世に対する戒めを伝えるのが、大正橋東詰(北側)にある1855(安政2)年7月建立の安政大津波碑です。そこには大地震が起きた場合には、必ず津波が襲うものとし、心得るべきだと教訓が書かれています。

1854(嘉永7)年11月の大地震による大津波の被害は甚大でした。その模様を記録し後世に対する戒めを伝えるのが、大正橋東詰(北側)にある1855(安政2)年7月建立の安政大津波碑です。そこには大地震が起きた場合には、必ず津波が襲うものとし、心得るべきだと教訓が書かれています。

安政大津波の碑(幸町3丁目9番)



浪速区史より

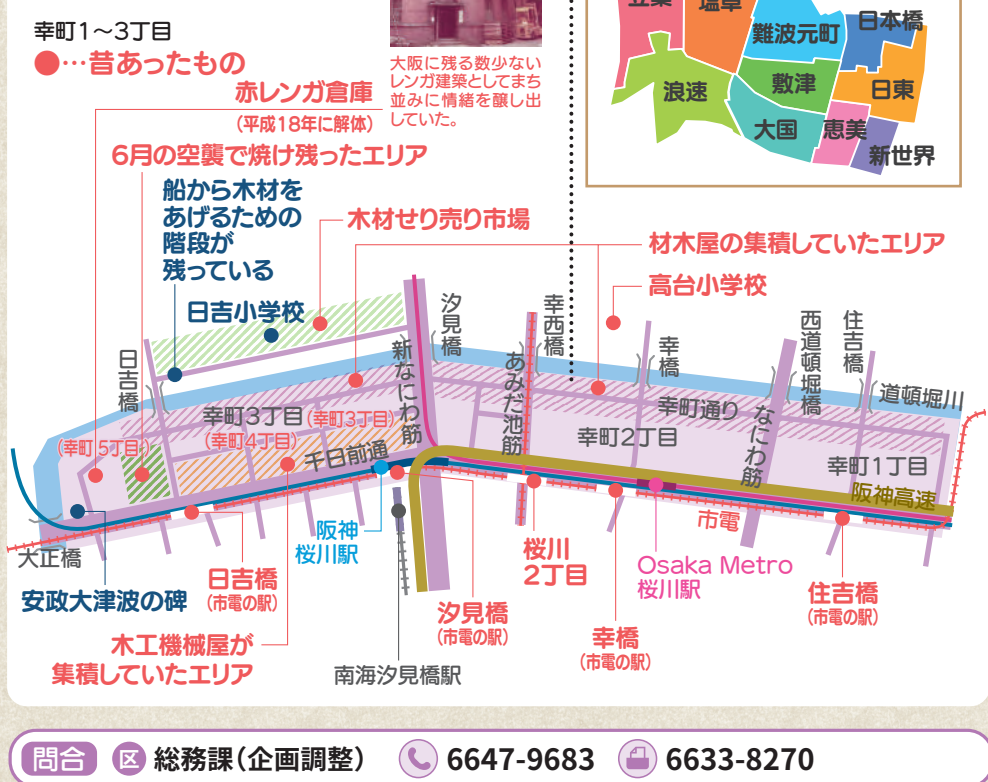
谷さん 「大地震両河口津浪記」として地震津波の戒めのために建立され、幸町3丁目西振興町会さんを中心に今でも亡くなった方の慰霊の催しを毎夏、行っておられます。お花も手向け、石碑に書かれているように後世に役立つよとの思いをつなげていく活動や清掃活動をずっと続けて、今日に至っています。

これからの地域への期待

千葉さん 幸町には昔、たくさん材木問屋がありましたが、その広い土地を賃貸マンションにしたり、処分して出て行かれました。
 今はサラリーマンが住むまちになりましたが、ももとは商売人のまちでした。私が引っ越してくる前は、日吉橋を少し南下して幸町通りと交差したところの空間で、やぐらを立てて盆踊りをしていたそうです。交通量もそこそこあったはずですが、きちんと警察への手続きも

して開催していたと聞きました。私だったらとてもそんなことはできません。
 大店に力があつたんでしょう。普段は木材を担いだり樽を運んだりする10代、20代の若者がたくさん働いていましたからね。社長がやるぞ!と言えはるんです。ある意味「ワンマン」ですが、そういう人たちが1人欠け、2人欠けて、寂しくなりました。
区長 最後に今後の幸町に期待することなど、教えてください。
谷さん 難波ほどの商業のまちではないでしょうが、かといって、住むまちというだけでもないでしょうし。でも、もう少し情緒のあるまち、誰にでも声かけられるような下町になったらいいと思いますね。
 外国人が入ってきたら治安が悪くなるという話もありますが、そんなことはないと思っています。うちの店は端材がたくさん出るんで、店先でワゴンに積んで無料で差しあげています。そうしたら外国から来て近くに住んでい

幸町 地域



問合せ 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270

浪速区制100周年へのご寄附をお願いします

令和7年4月1日に100周年を迎える浪速区を応援してください!

いただきましたご寄附は様々な事業に活用します!

- 100周年記念誌の発行
- 100周年記念式典の開催
- 100周年各種記念事業の実施 など

(特典) 寄附金額1万円以上で、記念誌へご寄附者名を掲載いたします! さらに寄附金額5万円以上の場合、上記特典に加えて、記念誌の贈呈と記念式典へご招待いたします!

寄附の申し込み方法など、詳しくは担当までお問い合わせください!!

問合せ 区 総務課 ☎ 6647-9625 ☎ 6633-8270 ☎ tj0001@city.osaka.lg.jp

なにわマニア話 vol.9 幸町 地域

■松下幸之助が働いた大阪電灯幸町営業所

松下幸之助の自伝『私の行き方考え方』などによれば、明治43年(1910)10月21日、15歳の幸之助は大阪電灯株式会社(関西電力の前身)の幸町営業所(幸町1丁目)に内線見習工として採用されました。それまでは自転車店で奉公していましたが、大阪市が導入した最新鋭の路面電車を見て感動し、「これからは電気の時代だ!」と直観したとか。念願の入社で幸之助は熱心に働き、本来1年はかかるところを、わずか3か月半で見習工から担当者になるまで昇格。初代通天閣の電灯工事に携わったりしています。この大阪電灯時代に思いついたのが改良ソケット(二股ソケット)で、しかし当時の上司に酷評され、幸之助は独立を決意。大阪電灯を退職し、大正7年(1918)3月7日に松下電氣器具製作所(現・パナソニックホールディングス)を起業しました。幸之助23歳の春でした。



大阪市電氣局の幸町修理工場。かつては大阪電灯の幸町発電所だった。出典:『電灯市営の十年より』

むつとし 陸奥 賢さん 案内人 観光家/コモンズ・デザイナー/社会実験者